



# Linux ホストへのデータブローカーのインストール Cloud Manager

Ben Cammett  
April 08, 2021

# 目次

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| Linux ホストへのデータブローカーのインストール .....      | 1 |
| Linux ホストの要件 .....                    | 1 |
| ネットワーク要件 .....                        | 1 |
| AWS へのアクセスを有効化 .....                  | 2 |
| Google Cloud へのアクセスを有効にします .....      | 2 |
| Microsoft Azure へのアクセスを有効にしています ..... | 2 |
| データブローカーのインストール .....                 | 2 |

# Linux ホストへのデータブローカーのインストール

新しいデータブローカーを作成する場合は、オンプレミスのデータブローカーオプションを選択して、オンプレミスの Linux ホストまたはクラウド内の既存の Linux ホストにデータブローカーソフトウェアをインストールします。Cloud Sync ではインストールプロセスがガイドされますが、インストールの準備に役立つように、このページの要件と手順が繰り返されています。

## Linux ホストの要件

- \* オペレーティング・システム \* :

- CentOS 7.0 、 7.7 、 および 8.0
- Red Hat Enterprise Linux 7.7 および 8.0
- Ubuntu Server 20.04 LTS の場合は
- SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1

コマンド 'yum update all' は ' データ ・ ブローカをインストールする前に ' ホスト上で実行する必要があります

Red Hat Enterprise Linux システムは、 Red Hat サブスクリプション管理に登録する必要があります。登録されていない場合、システムはインストール中に必要なサードパーティソフトウェアをアップデートするためのリポジトリにアクセスできません。

- \* RAM \* : 16GB
- \* CPU \* : 4 コア
- \* 空きディスク容量 \* : 10 GB
- \* SELinux \* : 無効にすることをお勧めします ["SELinux"](#) ホスト。

SELinux では、データブローカーソフトウェアの更新をブロックし、通常運用に必要なエンドポイントにデータブローカーがアクセスできないようにするポリシーが適用されます。

- \* OpenSSL \* : Linux ホストに OpenSSL がインストールされている必要があります。

## ネットワーク要件

- Linux ホストは、ソースとターゲットに接続されている必要があります。
- ファイルサーバが Linux ホストにエクスポートへのアクセスを許可している必要があります。
- AWS へのアウトバウンドトラフィック（データブローカーは常に Amazon SQS サービスと通信）を処理するために、Linux ホストでポート 443 が開いている必要があります。
- ネットワークタイムプロトコル（ NTP ）サービスを使用するように、ソース、ターゲット、およびデータブローカーを設定することを推奨します。3 つのコンポーネント間の時間差は 5 分を超えないようにしてください。

# AWS へのアクセスを有効化

S3 バケットを含む同期関係でデータブローカーを使用する場合は、Linux ホストで AWS にアクセスする準備をしておく必要があります。データブローカーをインストールする際、プログラム経由のアクセス権と特定の権限を持つ AWS ユーザに対して AWS キーを提供する必要があります。

## 手順

1. を使用して、IAM ポリシーを作成します ["ネットアップが提供するポリシーです"](#)。 ["AWS の手順を表示します。"](#)。
2. プログラムによるアクセス権を持つ IAM ユーザを作成します。 ["AWS の手順を表示します。"](#)。

データブローカーソフトウェアをインストールするときに AWS キーを指定する必要があるため、必ず AWS キーをコピーしてください。

# Google Cloud へのアクセスを有効にします

Google Cloud Storage バケットを含む同期関係でデータブローカーを使用する場合は、Linux ホストで GCP アクセスを準備しておく必要があります。データブローカーをインストールする場合、特定の権限を持つサービスアカウントにキーを提供する必要があります。

## 手順

1. まだ Storage Admin の権限がない GCP サービスアカウントを作成します。
2. JSON 形式で保存されたサービスアカウントキーを作成します。 ["GCP の手順を表示します。"](#)。

このファイルには、少なくとも「 project\_id 」、「 private\_key 」、および「 client\_email 」というプロパティを含める必要があります。



キーを作成すると、ファイルが生成され、マシンにダウンロードされます。

3. JSON ファイルを Linux ホストに保存します。

# Microsoft Azure へのアクセスを有効にしています

Azure へのアクセスは、関係ごとに定義されます。そのためには、同期関係ウィザードでストレージアカウントと接続文字列を指定します。

## データブローカーのインストール

同期関係を作成するときに、Linux ホストにデータブローカーをインストールできます。

## 手順

1. [ 新しい同期の作成 \* ] をクリックします。
2. [ 同期関係の定義 \* ] ページで、ソースとターゲットを選択し、[ 続行 \* ] をクリックします。

「 \* データブローカー \* 」ページが表示されるまで、手順を完了します。

3. [ \* データブローカー \* ] ページで、[ \* データブローカーの作成 \* ] をクリックし、[ \* オンプレミスのデータブローカー \* ] を選択します。

データブローカーがすでにある場合は、をクリックする必要があります  最初にアイコンをクリックします



このオプションには「 \* オンプレミス データブローカー \* 」というラベルが付けられていますが、オンプレミスまたはクラウド上の Linux ホストにも該当します。

4. データブローカーの名前を入力し、[ \* 続行 \* ] をクリックします。

手順ページがすぐにロードされます。これらの手順に従う必要があります。インストーラをダウンロードするための固有のリンクが含まれています。

5. 手順ページで次の手順を実行します。

- 「 \* AWS \* 」、 「 \* Google Cloud \* 」、またはその両方へのアクセスを有効にするかどうかを選択します。
- インストールオプションとして、 \* プロキシなし \* 、 \* プロキシサーバーを使用 \* 、または \* 認証付きプロキシサーバーを使用 \* を選択します。
- データブローカーをダウンロードしてインストールするには、コマンドを使用します。

次の手順では、使用可能な各インストールオプションの詳細を示します。インストールオプションに基づいて正確なコマンドを取得するには、手順ページを参照してください。

- インストーラをダウンロードします。

- プロキシなし：

```
curl <uri>-o data_broker_installer.sh
```

- プロキシサーバを使用：

```
curl <uri>-o data_broker_installer.sh -x <proxy_host>: <proxy_port>
```

- プロキシサーバで認証を使用する：

```
curl <uri>-o data_broker_installer.sh <proxy_username>:<proxy_password>@<proxy_host>:<proxy_port> -x
```

## URI

Cloud Sync の指示ページにインストールファイルの URI が表示され、オンプレミスのデータブローカーを導入するプロンプトに従ってロードされます。この URI はリンクが動的に生成され、1 回しか使用できないため、ここでは繰り返し使用されません。 [Cloud Sync から URI を取得するには、次の手順を実行します。](#)

- e. スーパーユーザーに切り替え、インストーラを実行可能にしてソフトウェアをインストールします。



以下に示す各コマンドには、AWS アクセスと GCP アクセスのパラメータが含まれています。インストールオプションに基づいて正確なコマンドを取得するには、手順ページを参照してください。

- プロキシ構成なし：

```
「 sudo -s chmod +x data_broker_installer.sh 」 / data_broker_installer.sh - A <AWS_access_key> -s <AWS_secret_key> -g <absolute_path-to-the _json ファイル>`
```

- プロキシ設定：

```
「 sudo -s chmod +x data_broker_installer.sh 」 / data_broker_installer.sh - A <AWS_access_key> -s <AWS_secret_key> -g <absolute_path-to-the _json ファイル> -h <proxy_host> -p <proxy_port>`
```

- 認証を使用したプロキシ設定：

```
「 sudo -s chmod +x data_broker_installer.sh 」 / data_broker_installer.sh - A <AWS_access_key> -s <AWS_secret_key> -g <absolute_path-to-the _json _file> -h <proxy_host> -p <proxy_port> -u <proxy_username> -w <proxy_password>
```

## AWS キー

これらはユーザに適切なキーです 準備しておきます [次の手順を実行します](#)。AWS のキーはデータブローカーに格納され、オンプレミスネットワークやクラウドネットワークで実行されます。ネットアップでは、データブローカー以外でキーを使用していません。

## JSON ファイル

この JSON ファイルにサービスアカウントが含まれています 準備しておく必要があるキー [次の手順を実行します](#)。

6. データブローカーが利用可能になったら、Cloud Sync で [\* 続行] をクリックします。
7. ウィザードのページに入力して、新しい同期関係を作成します。

## Copyright Information

Copyright © 2021 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system-without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

## Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.